

2023 年 8 月 7 日

千代田化工建設株式会社  
 総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

**2024 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会 質疑応答要旨**  
**(2023 年 8 月 2 日開催)**

2023年8月2日に開催致しました、2024年3月期第1四半期決算説明会(電話会議)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	【完成工事高】 完成工事高が通期予想比進捗率 29%と高い理由。	<p>次の2点に因るもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外大型案件が順調に進捗しており、大きな貢献を果たしているとともに、国内でもグループ会社含めて順調なスタートを切っていること。</li> <li>資材調達の最適化に伴う、前年度からの一部期ずれが影響していること。</li> </ul> <p>第 2 四半期以降は、完工を予定している案件もあるため、前年度と同様の水準で進捗する見込み。</p>
2	【完成工事総利益率】 完工総利益率は 6.5%、通期予想 7.8%を下回った理由。	<p>リスク管理体制の高度化の中、エネルギー分野の一部案件において、プロジェクトライフベースでの様々な潜在的なリスクを勘案して、一定の予備費を計上したことによるもの。特に第 1 四半期は 3 ヶ月間のため、予備費の計上の影響が大きく出るが、プロジェクトは中長期に亘るため、損益は四半期単位ではなく通期ベースでみていただきたい。</p>
	「予備費の計上」について、その具体的な内容。	<p>例えば、一部の海外案件における、工事進捗に合わせて継続購入する資材バルク品の値上がり、輸送費のボラティリティが高い状態が続いていることへのリスクへの手当てなど。</p>

#	質問	回答
3	<p><b>【受注見通し】</b>  受注額 344 億円、通期予想 3,000 億円に対して、進捗率が低い。  通期予想の達成見込み。  受注が見込まれる案件。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国内の市場は、政府による支援もあり、設備投資意欲が旺盛。中でも、先端技術、経済安全保障、脱炭素、医薬品・ライフサイエンス、電力マネジメント分野（蓄電等）を中心に、多くの引き合いが寄せられている。その多くは、随意契約ベースで協議が進んでいる。今年度、国内は2,000 億円の受注を目標としているが、大きく期待できると思う。なお、第1 四半期では、前年度から続く物価上昇の影響を受けているが、現在、様々な工夫をしながら、成約に向けて顧客と協議を続けている。</li> <li>• グループ総合力の強化のため、本年4 月に国内子会社3 社を統合し、国内有数のエンジニアリング会社となる千代田エクスワンエンジニアリングを設立した。この新会社で500 億円の受注を見込んでいる。</li> <li>• 海外については、超大型案件ではないが、グリーン水素・ブルー水素、アンモニア、CCUS 案件を中心に引き合いが舞い込んでいる。今年度は、将来に繋がるソフト業務を中心に行っていくとともに、遂行中案件のチェンジオーダーの獲得が相当量期待できる。</li> </ul> <p>以上を総合して、通期予想 3,000 億円の達成を目指す。</p>
4	<p><b>【事業環境】</b>  LNG の事業環境どのよう  に見ているか。</p>	<p>トランジションエネルギーとしての LNG の重要性が認識されるとともに、ロシア・ウクライナ情勢による需要の増加で、LNG への投資意欲は高まっている。</p> <p>当社としては、事業ポートフォリオ革新に向けて新規事業への経営資源投入を加速していくこともあり、慎重にリスク・リターンのバランスを見極めて、当社の強みが発揮できる案件を選別していく。</p>

#	質問	回答
5	<p><b>【収益性】</b>            収益力の改善で、従来から取り組んできている成果。</p>	<p>現在、海外大型案件を中心として、大きなトラブルなく順調に推移している。これは、2019年より再生計画の一環として取り組んできたリスクマネジメントの高度化とプロジェクト遂行力の強化が結果として表れているものと認識している。今後も、案件を着実に遂行し、収益を上げていく。</p>
6	<p><b>【新規事業分野】</b>            将来的に従来の事業分野と新規の事業分野との割合で1対1を目指していると理解しているが、その達成の見込み。</p>	<p>現在、2021年に公表した再生計画アップデートで掲げた、「2030年時点における利益貢献比率で既存事業:新規事業 = 50%:50%」を目指している。            一昨年、昨年と順調に新規事業分野の利益貢献比率を伸ばしており、また現在新規事業分野の受注が増えていることから、目標の達成に向けて、新規事業分野を着実に積み上げていく。</p>

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。